

2023年度厚生労働省医政局委託事業  
「在宅医療の災害時における医療提供体制強化支援事業」

連携型BCP/地域BCP策定モデル地域  
島根県奥出雲町における取組み

町立奥出雲病院  
奥出雲町健康福祉課

# 地域の状況

## ・人口

11,448人(高齢化率45.6%)(令和5年8月1日現在)

## ・地域の特徴

平成17年3月に旧仁多町・旧横田町が合併し、奥出雲町が発足した。島根県の東南端、中国山地の山間に位置し、面積の80%以上を森林が占めており、豪雪地帯にも指定されている。山間に位置しているため急峻な地形が多い。合併当時の人口は約16,000人であったが、人口流出・少子化により過疎化・高齢化が進んでいる。

## ・災害等の歴史

本町での災害は風水害が主で、例年土砂災害は発生するが、物的・人的被害につながるものは少ない。町中央部には一級河川斐伊川が流れるが、上流部であるため浸水想定区域は定められていない。

地震災害も少なく、近年では平成12年10月鳥取県西部地震が最も大きな地震災害となる。

直近の特筆すべき災害としては、全世界で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症であり、本町においても多くの罹患者が発生し、施設内クラスターの発生や行政機能がストップするなど大きな影響をもたらした。

## ・在宅医療・ケア資源と病院等との連携等

本町の病院は町立奥出雲病院のみで民間診療所が5箇所、公立診療所が1箇所ある。町立奥出雲病院では訪問診療、訪問看護、訪問栄養、訪問リハを実施している他介護医療院も併設している。介護資源としては2つの社会福祉法人、4つの民間事業者により一通りの介護サービスが提供されている。奥出雲病院が唯一の病院であり、病院を中心に医療介護の連携を進めるには比較的取り組みやすい環境であるが、連携が進んでいるとは言いがたい状況にある。

# わが地域の課題

## •これまでの被災経験・コロナ対応で特筆すべきこと

介護施設でコロナ患者が発生した際に、医療依存度が低い方であっても奥出雲病院へ受け入れの依頼が生じ、奥出雲病院の病床コントロールが困難となった。

病院－施設間の情報共有の遅れがあり、病院からの専門職の派遣の遅れが生じた。

施設では市販の検査キットしか使用できず、患者の発見が遅れ、クラスターの発生につながった。

感染対策品等について、全国的な需給バランスの崩れにより確保が困難になる事態も生じた。

## •連携型BCP・地域BCPとして考えるようになった理由

上記課題について、病院・施設・行政の連携を密にする仕組みを構築することで解決が可能であり、この取組が地域包括ケアの推進にもつながることから、連携型BCPに取り組むこととした。

## •わが地域のBCP観点からの課題

経営母体・法人の性格が異なる事業者の枠を越えて、参加者が納得する相互支援の仕組みを構築することが高いハードルとなる。

# 今年度の取り組み(1)

## ・目的(何をを目指すのか)

コロナ感染症拡大時に経営母体が異なる施設間で人員・物品の適切な再配置を行う  
仕組みの構築

## ・実際にどのようなことにチャレンジするのか

### 1) 有事における医療・介護の役割・機能分担の明確化

感染症にフォーカスし、具体的な事例をもとに、有事における町内の医療・介護の役割  
分担を明確にし、一般化する。

### 2) 経営母体が異なる機関が連携するための仕組み構築

- ・地域内で経営母体が異なる機関の相互支援のあり方を模索する
- ・対価、支援依頼のフローなどの仕組みを検討する
- ・病院と施設間でベッドコントロールルールに関するコンセンサスを得る
- ・有事における医療、介護専門職の再配置、物品融通のルールを構築する

### 3) 地域BCP講演会の実施(9月~10月)

### 4) シミュレーション訓練の実施(2月)

## 今年度の取り組み(2)

### ・具体的スケジュール

#### 10月:第1回目会議

奥出雲BCP(感染症)の必要性の共有  
奥出雲BCP(感染症)の概要の説明

#### 11月:第2回目会議

奥出雲BCP(感染症)の完成(仮)

#### 1月:第3回目会議

次年度の計画  
シミュレーション訓練について

#### 2月:シミュレーション訓練と振り返り